

## ヒサカキワタフキコナジラミによるチャへの被害について

ヒサカキワタフキコナジラミのチャへの寄生が、我が国および県内で初めて確認されました。

成虫及び幼虫が新芽や新葉に寄生して吸汁加害し、幼虫によりすす病が発生します。

特殊報：新規な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

### 1 病害虫名

ヒサカキワタフキコナジラミ *Pealius euryae* (Takahashi)

### 2 発生経過

- (1) 平成27年3月、県西部の一部茶園において、茶株内の枝条の葉裏に種不明の白い幼虫が多数寄生しているのが確認された。茶園から採集した幼虫を埼玉県茶業研究所で飼育したところ、成虫の形態からコナジラミ類の一種であることがわかった。
- (2) 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所（金谷茶業研究拠点）に同定を依頼したところ、平成27年7月にコナジラミ類の専門家である石原産業株式会社の上宮健吉博士を介して、本種はヒサカキワタフキコナジラミと確認された。
- (3) 我が国において、本種の寄主植物は、ヒサカキのみ知られ、チャへの寄生はこれまでに報告されておらず、本邦初確認と見なされる。
- (4) 中華人民共和国ではチャ、サカキ、ヒサカキに本種に類似した別の種が寄生するとされるが、今後遺伝子解析等により本種との比較が必要とされる。
- (5) 平成27年6月、茶業研究所内の県予察ほ場において、茶株内の枝条における発生を調査したところ、本種の発生率は87% (60カ所中52カ所) であった。
- (6) 本種は、県西部の茶生産地帯で分布域を拡大している。

### 3 形態及び発生生態

#### (1) 形態及び生態

成虫の体長は約1.0mm、体色は白色である。幼虫は小判状で淡黄緑色を呈し、周囲に長い糸状の白色綿状物質をもつ。終齢幼虫の体長は成虫とほぼ同じである。成虫は新芽や新葉（展開したばかりの葉）に集合して吸汁加害するほか、大量の

卵を新芽の葉裏に産下する。また、幼虫は葉裏に生息して吸汁加害するとともに、白い綿状の分泌物を出し、葉裏全体を覆うようになる。

成虫、幼虫ともに茶株内の直射日光が当たらない枝条に好んで発生する。現在のところ、茶樹の摘採面上における新芽・新葉への寄生は確認されないが、茶株内に葉を伴った枝条がない場合、摘採面の内側の葉に発生することがある。

## (2) 被害

本種は成虫、幼虫ともに新芽及び新葉の葉裏に集合して寄生するため、葉裏全体が白い分泌物等で覆われる。幼虫の吸汁加害と、分泌される甘露によって下位葉の葉表に灰白状のすす病を誘発する。

現在までの観察では、本種は茶株内の直接光が当たらない部位で発生を繰り返しているため、ただちに収穫芽や茶樹の生育に被害を及ぼすことは少ないと推察される。

しかし、現時点では確認されていないが、覆い下栽培や被覆処理など遮光を伴う栽培形態の場合には、収穫物となる新芽に被害が発生する可能性がある。

## 4 防除対策

- (1) 覆い下栽培や被覆処理など遮光を伴う栽培形態においては、本種が収穫芽に寄生し被害が発生する恐れがあるため、十分に警戒する。また、収穫芽に本種の寄生が確認された場合は、新芽の被害が進展しないうちに速やかに収穫する。
- (2) 本種のチャにおける生態に関しては十分な知見がないため、発生ほ場での動向には十分注意する。
- (3) サカキ、ヒサカキ栽培ほ場周辺の茶園では、本種の発生に注意する。
- (4) 本種に対する登録薬剤はないので、発生の多い茶園において、実施可能な場合は、中切りや台切り処理を行ない、発生しにくい環境にする。
- (5) 本種と疑われる害虫が発生した場合は、他の害虫との判別がつきにくいこともあるため、病虫害防除所及び茶業研究所に相談する。

## 5 問合わせ先

埼玉県病虫害防除所

場所：熊谷市須賀広 7 8 4 (埼玉県農業技術研究センター内)

電話：0 4 8 - 5 3 9 - 0 6 6 1

埼玉県茶業研究所

場所：入間市上谷ケ貫 2 4 4 - 2

電話：0 4 - 2 9 3 6 - 1 3 5 1



**図1 茶株の内部で発生するヒサカキワタフキコナジラミが寄生した茶枝条**  
 葉裏に寄生するが白い綿状分泌物が葉縁をはみ出し、寄生が確認される。



**図2 葉裏に寄生するヒサカキワタフキコナジラミ幼虫（越冬世代）**  
 白くて長い綿状分泌物がみられる。



**図3 葉裏に寄生する幼虫**  
 終齢幼虫の体長は1 mm 内外。分泌された綿状物質は容易に幼虫から離脱する。



**図4 成虫と産下された卵**  
 成虫の体長は約1 mm 内外。卵は新芽の葉裏に産下され、付近は白く汚れる。



**図5 新芽に寄生する成虫と大量の卵**  
 新芽の葉裏がほぼ卵で埋め尽くされる。卵の周囲はまだら状に白く汚れる。



**図6 幼虫の寄生により生じたすす病**  
 チャトゲコナジラミによる黒色のすす病と異なり灰白状のすす病となる。